

○全体景況（一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している）

・生産は、中国など海外経済減速の影響等により、電子部品・デバイスがスマートフォン関連などで弱い動きがみられるものの、輸送機械が高水準、生産用機械が底堅く推移。設備投資は、受注増加に向けた生産能力増強や人材不足解消のための省人化投資等で増加傾向が継続。雇用は、有効求人倍率が高水準で推移。個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、高額品は引き続き好調。

○生産

- ・生産用機械：中国向け半導体関連や工作機械は弱含みも、内需を中心に北陸、中国、四国、九州で底堅く推移。
- ・電子部品・デバイス：スマートフォン関連を中心に東北、関東、東海、北陸、中国、四国、九州で弱い動き。
- ・輸送機械：乗用車等を中心に関東、東海、近畿、中国、九州で堅調に推移。

○設備投資

- ・製造業：生産能力増強や設備の更新投資に加え、人手不足を補うための省人化投資などで増加傾向が継続。
- ・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗改装に加え、人手不足へ対応するための省人化投資や消費増税対応を含めたシステム投資への動き。

平成31年4月－令和元年6月期地域経済産業調査～全体総括(2/2)～

○雇用情勢

- ・製造業：資格や技術を有する人材の不足が顕著で、人材の確保が困難。労働条件の改善、多様な人材の活用その他、業務の効率化や処遇改善の動き。
- ・非製造業：小売業、サービス業を中心に様々な業種で人員が不足。採用手法の多様化や、女性・シニア・外国人等の多様な人材の活用がみられるほか、人材確保のための処遇改善の動き。

○個人消費

- ・百貨店・スーパー：衣料品は低調も飲食料品に動き。化粧品や高額品はインバウンド需要もあり引き続き好調。
- ・コンビニエンスストア：カウンター商材が引き続き好調。
- ・ドラッグストア：新店効果に加え、買い上げ点数の増加等により引き続き堅調。
- ・家電大型専門店：高付加価値商品を中心にエアコンやテレビが好調。
- ・新車販売：新型車効果により普通車、軽自動車が堅調。
- ・観光：大型連休期間中は観光客が大幅増加し好調。外国人旅行者も増加している。

4-6月期企業の声

	企業の主な声
生産	<ul style="list-style-type: none"> ・国内、北米、欧州向けは堅調であるが、中国向けは受注鈍化が長引いている。(生産用機械／東北) ・フラッシュメモリの市場価格が下落しており、スマートフォン向けを中心に減少。(電子部品・デバイス／東海) ・新型車効果及び世界的なSUV人気の継続で好調を維持。(輸送機械／九州) ・空調事業は海外国内ともに需要が堅調で、フル生産状態。(電気機械／近畿)
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発に伴う新規設備投資を予定。(食料品／東北) ・建物等の大型投資は一段落したため、今年度は設備更新など例年通りとなる見込み。(化学／北陸) ・合理化、省力化を目的として、食洗機やセルフレジの導入。(コンビニ／四国) ・消費増税への対応を中心としたシステム系の設備投資が増加予定(ホームセンター／関東)
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の定着を図るべく、賃金増加等の待遇改善を行っている。(プラスチック／近畿) ・技術系を中心に人員が不足。(輸送機械／中国) ・正社員に加え、パートの退職年齢を引き上げ。(スーパー／九州) ・主婦やシニア層が増えている。(ドラッグストア／北陸)
消費	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料品が不調なもの、高額品やインバウンド消費は好調。(百貨店／東海) ・単価の高い商品が売れ、まとめ買いが進み購買点数も上がっている。(スーパー／沖縄) ・気温の上昇でエアコンの売上が大きく伸びた。(家電量販店／北海道) ・消費増税による消費マインドの落ち込みを懸念。(旅館／四国)
最近のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・中国から米国に輸出していた部品をベトナムなどに移管して貿易摩擦に対応。(電気機械／近畿) ・消費増税の影響について現時点で目立った動きはないが、8月ごろから駆け込み需要が起こると予測。 (百貨店／関東) ・ゴールデンウィークの大型連休により売上増加。(観光／九州)

北海道

<p>全体景況</p>	<p><緩やかに持ち直している> 生産は、石油製品の生産体制の見直しなどにより、やや弱い動き。個人消費は、飲食料品の堅調な動きなどから持ち直している。観光は、ゴールデンウィークで国内客は好調なほか、インバウンドは引き続き堅調。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産はやや弱い動きとなっている ✓ 生産体制の見直しがあった企業があり、石油製品の生産が大幅に減少したことなどから、やや弱い動きとなっている。なお、一部の企業で中国景気減速の影響で、製品の受注が落ちているとの声がある。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 製造業は大幅に増加し、非製造業は前年度の反動から減少するものの、全体では増加している。 ✓ 製造業は、北海道胆振東部地震の影響などから、設備投資が今年度にずれ込んだ企業等もあり、大幅に増加。 ✓ 非製造業は、前年度の幅広い業種で、比較的大きな設備投資があったことの反動で減少。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 有効求人倍率は、長期にわたり改善。 ✓ 一方、雇用のミスマッチにより、建設業、製造業、サービス業の現場など、多くの職種で人手不足となっており、生産活動や公共工事、住宅建設などに与える影響が懸念される。</p> <p>○個人消費は持ち直している ✓ 百貨店は、一部店舗の閉店の影響が出ている。スーパーは、飲食料品が堅調な動きとなっている。 ✓ コンビニエンスストアは、気温の上昇で夏物商材の売上げが伸びた。ドラッグストアは、店舗数の増加に加え、飲食料品が堅調な動きとなっている。 ✓ ホームセンターは、ゴールデンウィークなどでレジャー用品が好調だったほか、物置やリフォーム関連に消費増税前の駆け込み需要の動きが出始めている。家電販売は、冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどが好調。 ✓ 新車販売と住宅建設では、前回の消費増税の時ほど大きくないものの、駆け込み需要が若干みられる。 ✓ 観光は、ゴールデンウィークなどにより国内客は好調。外国人観光客は堅調で、中国景気減速の影響はみられない。 ✓ 消費増税前の駆け込み需要とその反動を予想している企業が多い。増税後の消費マインドの後退を懸念。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) ※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">97.0(98.8)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">1.25(1.22)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">0.6%(0.6%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">3.5%(2.6%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

東北

<p>全体景況</p>	<p><一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている> 生産は、電子部品・デバイスがスマートフォン関連で弱含んでいるものの、生産用機械が半導体関連を中心に底堅く、輸送機械が持ち直しており一進一退。個人消費は、自動車や高額品に動きがみられたが、全体としては足踏み状態となっている。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は一進一退となっている ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン関連を中心に弱含んでいる。 ✓ 生産用機械は、半導体関連を中心に底堅く推移している。輸送機械は、持ち直している。 ✓ 一部で米中貿易摩擦による海外市場の減速に関する声が出ている。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 2019年度の設備投資計画については、前期時点と比べ「変更なし」とする企業の割合が高いなか、「増額した」とする企業が製造業、非製造業ともに増えた。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 雇用情勢は、2019年5月の有効求人倍率は1.49倍、新規求人倍率は2.03倍とそれぞれ高水準の動きが続いている。 ✓ 雇用者の過不足判断では、「不足」とした企業が前期より1割減少し約5割となり、製造業での人手不足感がやや薄らいできている。給与・賞与等の処遇改善を実施、予定及び検討の事業者が約8割となっている。 ✓ 人手不足に関する主な声としては、定年退職等による人員減少、応募者の減少、若年層や資格者の人員不足、定着率低下など。</p> <p>○個人消費は足踏み状態となっている ✓ 百貨店は、催事などが好調で来店客数が伸びた店舗がみられた。スーパーは、来店客数が減少し伸び悩んでいる。 ✓ コンビニエンスストアは、ゴールデンウィーク期間中売上やクール系商品が好調に推移し、持ち直している。 ✓ ドラッグストアは、新店効果などにより堅調。 ✓ 新車販売は、若干の動きがみられるもののほぼ横ばい。 ✓ 当期は自動車や大型家電など的高額品に動きがみられたが、衣料品や飲食料品は伸び悩み、全体としては、ほぼ横ばいで足踏み状態となっている。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) <small>※季節調整値</small></small></p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p>
	<p>104.9(103.3)</p>	<p>1.49(1.53)</p>	<p>0.1%(▲0.3%)</p>	<p>2.6%(2.2%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

関東

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉</p> <p>生産は引き続き国際情勢の影響等もあり電子部品・デバイスが弱含んでいるものの、輸送機械の需要が堅調であるなど一進一退で推移。雇用情勢は着実に改善する一方、人手不足が継続。個人消費は業態間の差異を伴いつつも緩やかに持ち直している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は一進一退で推移している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 輸送機械は、一部を除き国内外需要ともに堅調。米国の関税政策などの国際情勢に大きく左右されることを懸念。 ✓ 工作機械関連は、中国での投資減速から受注が減少し、生産に影響が出ている。 ✓ 半導体製造装置、電子部品・デバイスは、半導体市況の一時的な在庫調整により受注が減少しているが、一部の高性能半導体製造装置については好調。長期的には5G対応製品に寄せる期待も多く、今後の米中関係について早期解決を望む声や動向を注視又は懸念する声もみられた。 <p>○設備投資は前年度を上回る見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、当初計画通りに設備投資を進めるとの声が多数。設備投資要因としては、事業拡大に向けた生産能力増強に加えて、老朽化した設備の維持更新を目的としている。 ✓ 非製造業も当初計画通りとの声が多数。小売業で省力化投資、消費増税対応のシステム改修が引き続きみられる。 <p>○雇用情勢は着実に改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業、非製造業ともに引き続き人手不足。特に技術系人材の確保が難しいという声があり、社内人員シフトなどにより対応するとしている。 ✓ 今春から順次施行されている働き方改革関連法による残業規制などへの対応を憂慮する声もみられる一方、ベースアップなどの改善措置は多くの企業で実施されている。 <p>○個人消費は緩やかに持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店等は、主力の衣料品が低調であるものの、引き続きインバウンドを中心にラグジュアリーブランドや時計などの高額品、化粧品の上昇が好調。 ✓ スーパーでは、値上げによる買い控えや、10連休中はレジャー需要などから来店客数の減少がみられた一方、新店効果や高付加価値商品に動き。消費増税後の買い控えや価格低下の懸念も。 ✓ コンビニエンスストアは、中食需要の取り込み等で堅調。キャッシュレス対応など顧客ニーズへの取組も進んでいる。 ✓ 家電販売は、高付加価値商品を中心にテレビや白物家電が好調。キャッシュレス対応も進めている。 			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">103.2(99.2)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.63(1.62)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲0.6%(▲2.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">2.1%(3.2%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(東海)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉 生産は、電子部品・デバイスは減少しているものの、主力の輸送機械が高水準で推移。個人消費は、コンビニエンスストア、ドラッグストアなどが堅調であることから、緩やかに持ち直し。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は高水準で推移している ✓ 主力の輸送機械は、乗用車が海外向けを中心に緩やかに増加しており、全体では高水準で推移。 ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に減少している。 ✓ 金属工作機械は、国内向けが横ばいとなっているものの、海外向けが弱含みとなっていることから、全体でも弱含み。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 製造業では、合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品やファインセラミックスは新製品対応や生産能力増強の動き。大企業、中小企業ともに、投資意欲が高い。 ✓ 非製造業では、ドラッグストア、スーパー、コンビニエンスストアで新規出店や改装の動き。 ✓ 製造業、非製造業ともに、人手不足を背景とした省人化投資への動き。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる ✓ 製造業では、大企業は不足感が緩和しているものの、中小企業は不足感が継続。非製造業では、百貨店、スーパー、コンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続しており、募集をしても人が集まりにくい状況。</p> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している ✓ 百貨店は、衣料品が不調なものの、高額品やインバウンド消費は、引き続き好調に推移。スーパーは、行楽需要で飲食等に動き。 ✓ コンビニエンスストアは、カウンター商材が好調。ドラッグストアは、化粧品が好調。家電販売は、エアコンなど、生活家電が堅調。 ✓ 小売業の各業態間における競争が激化。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) <small>※季節調整値</small></small></p> <p>114.6(108.6)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.94(1.96)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲1.1%(▲3.2%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>2.5%(4.2%)</p>

※指標は5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中部(北陸)

全体景況	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、改善している〉</p> <p>生産は、電子部品・デバイスでスマートフォン向けが減少しているものの、化学や生産用機械を中心に高水準で推移。個人消費は、スーパー、ドラッグストアなど飲食料品を中心に堅調な動きがみられ、持ち直し。</p>			
個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)	<p>○生産は一部に弱い動きがみられるものの、高水準で推移している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 電子部品・デバイスは、自動車向けが堅調も、スマートフォン向けが減少している。 ✓ 化学は、ジェネリック医薬品や受託製造品を中心に高水準で推移している。 ✓ 生産用機械は、半導体製造装置などに弱い動きがみられるものの、繊維機械などには引き続き好調な動きがみられ、国内向け建設機械も高水準で推移するなど、全体では堅調。 <p>○設備投資は高水準で横ばいとなっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、大型投資は一巡したものの、引き続き生産能力増強に加え、生産性向上投資が積極的に行われている。 ✓ 非製造業では、新規出店や店舗改装に加え、人手不足に対応した省力化投資が行われている。 <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、一部の生産現場で充足感もみられるが、引き続き派遣社員等から正社員に切り替え募集する企業があるなど、人手不足が継続。 ✓ 非製造業では、慢性的な人手不足が続いている。高齢者の採用等による対応や、福利厚生の実施等により従業員の満足度向上に取り組む企業がある。 <p>○個人消費は持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店は、化粧品や一部の高額品などは堅調に推移したが、ゴールデンウィーク中の来客増は購買に結びつかず、その後の来客数は前年を下回る。 ✓ スーパーは、気温影響から春物衣料が振るわなかったものの、飲食料品には堅調な動きがみられる。 ✓ ドラッグストアは、食料品の品ぞろえ強化などにより集客力が高まり、ついで買いが増えるなど、好調な動きが続いている。 ✓ 家電販売は、高付加価値商品が好調で客単価が上昇しており、消費増税前の駆け込みも始まっている。 ✓ 先行きについて、消費増税に伴う影響を懸念している企業がみられる。 			
関連指標	鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	101.0(101.0)	1.95(2.03)	1.1%(0.6%)	2.4%(3.0%)

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

近畿

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉 生産は、海外経済の影響を受けるも内需が堅調。個人消費は、インバウンドが好調を維持、国内向けにも高額品や高付加価値品が堅調で、緩やかに改善している。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は底堅い動きがみられる ✓ 電気・情報通信機械及び電子部品・デバイスは、米中貿易摩擦や中国景況の変化による影響が懸念されるものの堅調に推移。 ✓ 輸送機械は、自動車部品等が好調。 ✓ 生産用機械は、半導体製造装置等が弱含み。 ✓ 総じて、内需が下支えし、底堅い動きがみられる。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 製造業では、設備の維持・更新や生産能力の増強を中心に、多くの企業で昨年度並みか昨年度以上の設備投資を見込んでいる。 ✓ 非製造業では、小売業で新規出店が見込まれるほか、消費増税対応を含めたシステム投資がみられる。</p> <p>○雇用情勢は改善しており、労働需給の引き締まりがみられる ✓ 製造業では、IoTやAI関係を中心とした技術者が特に不足しており、小売業やサービス業などでは、パート・アルバイトの確保が困難な状況が続いている。 ✓ 人手不足の対策として、賃金をはじめ雇用環境の改善が進められるとともに、省力化の推進、外国人・高齢者など多様な人材の活用などがみられる。 ✓ また、採用は新規・中途ともに厳しい人材獲得競争が続いている。</p> <p>○個人消費は緩やかに改善している ✓ 百貨店は、国内外ともに堅調な化粧品、高額品等が牽引。 ✓ スーパーは、農産品の相場安が回復しつつあり、連休中の惣菜などに動きがあった。 ✓ 家電販売は、エアコンをはじめ高付加価値の白物家電やパソコンが好調。 ✓ 新車販売は、普通車、軽乗用車が好調持続。 ✓ インバウンド消費は、好調を維持している。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) ※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center; color: red;">102.9(102.4)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">1.64(1.64)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">0.4%(▲1.3%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue;">4.2%(5.7%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

中国

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きとなっている〉 生産は電子部品・デバイスなど一部に弱い動きがみられるものの、自動車の新型車の本格生産開始等により緩やかな持ち直しの動き。個人消費は高額品のほか、花見需要や入学祝い、改元にちなんだ飲食料品などが好調で緩やかな持ち直しの動き。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は一部に弱い動きがみられるものの、緩やかな持ち直しの動き ✓ 鉄鋼は、前期の設備トラブルからの回復により、生産増。 ✓ 化学は、一部事業所の定期修理の影響により、生産減。 ✓ 自動車は、新型車の本格生産開始等で高操業となっている。 ✓ 汎用・生産用・業務用機械は、受注状況に山谷がみられるが、概ね横ばい。 ✓ 電子部品・デバイスは、海外市場の影響を受けて一部に需要の落ち込みがみられる。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 製造業では、引き続き受注増加や新商品対応のための生産設備、省力化設備の導入等が計画されている。 ✓ 非製造業では、引き続き新規出店や店舗改装、既存設備の維持更新のほか、セルフレジの導入も計画されている。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる ✓ 正社員・パートを問わず、製造業では現業職や技術職、非製造業ではトラックドライバーや販売員など様々な職種で人員が不足している。 ✓ 今後の雇用については、売り手市場で新規採用が困難なため中途採用を継続して実施していく、外国人の積極的な活用を進めていきたい、という声が聞かれた。</p> <p>○個人消費は緩やかな持ち直しの動き ✓ 百貨店では、ラグジュアリーブランドや改元関連商品の販売は好調に推移したものの、飲食料品や衣料品が低調。 ✓ スーパーでは、花見需要や入学祝いなどにより飲食料品が好調だったほか、肌着やランドセルに良い動きがみられた。 ✓ ホームセンターでは、園芸用品やレジャー用品などの販売が好調。 ✓ 家電販売は、引き続き高付加価値商品が好調に推移している。 ✓ ドラッグストアでは、食品の販売が好調だったほか、気温の上昇に伴い、制汗剤・UVケア商品などにも良い動き。 ✓ 新車販売は、4、5月とも好調で前年を上回った。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H27=100) ※季節調整値</small></p> <p>103.9(102.0)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.93(1.93)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>0.6%(▲0.7%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>4.0%(4.6%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

四国

全体景況	<p>〈持ち直しの動きに足踏み感がみられる〉 生産は、電気機械等で一部に弱い動きがみられるなど弱含みで推移。個人消費は、気温が高めに推移し季節商品に影響がみられたことから持ち直しの動き。</p>			
個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)	<p>○生産は弱含みで推移 ✓ はん用・生産用機械は、建設機械が国内外の需要回復により生産増となったことなどから、おおむね高水準で推移。 ✓ 繊維は、化学繊維が衣料用途で先行き不透明であるものの、産業用途は堅調であるなど、おおむね横ばいで推移。 ✓ 窯業・土石は、セメントがオリンピック等の需要が堅調であり、おおむね横ばいで推移。 ✓ 電気機械は、半導体集積回路や半導体ウェハーがスマートフォン関係の販売不振などにより、一部に弱い動き。</p> <p>○設備投資は持ち直しの動き ✓ 製造業では、パルプ・紙・紙加工品、はん用・生産用機械などを中心に増産・新規受注対応といった積極的な投資計画がみられる。また、非製造業においても、小売業で店舗の新設や改装などの前向きな計画のほか、人手不足に対応した合理化・省力化、消費増税対策などの計画などもみられる。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 製造業の一部で過剰感が窺えるものの、依然として、有資格者、開発担当要員、現場要員などの必要な人材が確保できない状態は続いており、非製造業でその傾向が強い。 ✓ 引き続き、就労環境の改善を通じて人材の定着及び業務の効率化を図りながら、人材確保のための地道な採用活動や、派遣社員、外国人の活用など、必要な人員確保に向けた努力が続けられている。</p> <p>○個人消費は持ち直しの動き ✓ 百貨店は、化粧品や高額品に動きがみられたものの、衣料品は不調。ゴールデンウィークでの行楽需要や気温の上昇などから、スーパーでは、総菜、精肉、ソフトドリンクなどが、コンビニエンスストアでは、フライヤー、冷やし麺などが好調。 ✓ 家電販売は、気温の上昇によりエアコンに動きがみられた。 ✓ 新車販売は、乗用車では新型車の投入効果などから、軽乗用車、普通車を中心に持ち直しの動き。 ✓ 観光は、ゴールデンウィーク期間中は観光客が大幅増加。インバウンドは、新たな定期便就航により今後も増える予想。</p>			
関連指標	鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	91.2(92.7)	1.59(1.59)	1.3%(▲0.4%)	3.1%(2.8%)

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

九州

<p>全体景況</p>	<p>〈横ばいとなっている〉 生産は、自動車が強調に推移する等、横ばい傾向。個人消費は、改元、ゴールデンウィーク効果はあったが、全体としては横ばい。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばい傾向 ✓ 輸送機械は、自動車生産が世界的なSUV人気や国内向け需要を背景に強調に推移。 ✓ 電子部品・デバイスは、中国向けで弱い動きがみられるものの、車載用や単価の高い製品は強調に推移。 ✓ 汎用・生産用・業務用機械は、中国向けで弱い動きがみられるものの、全体としては底堅く推移。 ✓ 素材関連は、化学は半導体関連で弱い動きがみられるが前期と比べ増加。一方、鉄鋼は、建築・土木向け等が強調。</p> <p>○設備投資は増加している ✓ 製造業では、設備能力増強、新商品の開発・製造や新分野への進出に向けた動きがみられた一方、受注業者の人手不足により金額、工期の条件が厳しくなっているとの声や、一部業況の悪化により投資を再検討する動きもみられた。 ✓ 非製造業では、店舗改修の他、消費増税に備えた動きがみられたほか、働き方改革に向けた対応のため、従業員の職場環境改善や効率化投資などの動きもみられた。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 全体的には人手不足。人材獲得に向け、新規採用の年齢制限撤廃、退職年齢引上げ、非正規社員の処遇改善の動きがみられた。また、残業時間減少に向け、業務効率化の動きや出退勤管理強化の動きがみられた。</p> <p>○個人消費は横ばいとなっている ✓ 百貨店・スーパーは、4月上旬が天候要因で初夏物衣料等の販売が苦戦したが、改元、ゴールデンウィーク効果で一時的に持ち直し。 ✓ 家電販売は、白物家電やTVに買い換えの動きなどがみられる。 ✓ 新車販売は、前年の同時期と比べると、普通乗用車、軽自動車が強調。 ✓ 観光は、ゴールデンウィークの大型連休期間中は、観光客が大幅に増え、宿泊単価も上がっている。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p> <p>106.3(106.9)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.49(1.49)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲0.6%(▲0.0%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>3.1%(4.7%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。

沖縄

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 管内の入域観光客数の増加、個人消費の堅調さを背景に改善が続いている。また、設備投資は持ち直している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばいとなっている ✓ 主要業種である食料品工業が堅調に推移し、全体として横ばいの傾向となっている。 ✓ 短期・長期の見通しは、前回結果に比べると「増加」及び「減少」が少なくなり、「変化なし」との声が多かった。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 2019年度の設備投資計画は、前年度比で増加。設備や施設の改修・増設等が見込まれる。 ✓ また一部ではセルフレジの導入やバックオフィスにIT導入を進めるとの声。</p> <p>○雇用情勢は改善が続いている ✓ 有効求人倍率は、全国に比べて差があるが、32ヶ月連続で1倍台を維持しており堅調に推移。 ✓ 多くの事業者(7割以上)から人手不足との意見。 ✓ 人手不足緩和のため、建設・運輸・情報処理ソフトウェア等の業種で賃金を上げたとの声があった。また、職場環境の改善に取り組む企業も存在。</p> <p>○個人消費は改善が続いている ✓ 百貨店・スーパー、コンビニ、ドラッグストアを中心に堅調に推移している。 ✓ 客単価が増加し、売上が伸びているとの声もあった。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H27=100) ※季節調整値</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p>
	<p>86.1(88.2)</p>	<p>1.18(1.21)</p>	<p>3.4%(2.2%)</p>	<p>3.1%(4.7%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値(鉱工業生産指数は4月、括弧内は1月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。